

令和元年度第5回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 令和元年2月14日(月) 午後1時30分～午後3時
- 2 場所 青梅市役所 204会議室
- 3 出席委員
森田委員、小澤委員、茂原委員、熊谷委員
- 4 議事
協議事項
 - (1) 子育て世代と市長との懇談会開催結果について
 - (2) パブリックコメントの実施結果について
 - (3) 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - (4) 地方創生推進交付金について
 - (5) その他

(配布資料)

青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員名簿

資料1 子育て世代と市長との懇談会開催結果

資料2 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)

資料3 令和元年度地方創生推進交付金対象事業実施状況

・令和元年度第4回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録概要版(委員のみ)

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>(開会)</p> <p>令和元年度の第5回目の懇談会を開催する。</p> <p>今年度は、第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するということで、例年より多く懇談会を開催してきたが、今回が今年度最後の懇談会となる。</p> <p>第2期総合戦略策定の仕上げと、今後の総合戦略推進も見据えて、御意見をいただきたい。</p> <p>年明けは2020オリンピックの話題が多かったが、最近はコロナウイルス一色になっている。大変広まってきているが、手洗いうがいや人込みを避けるなど、委員におかれても感染予防に気を付けていただければと思う。</p> <p>それでは次第の2 子育て世代と市長との懇談会開催結果について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>2 子育て世代と市長との懇談会開催結果について (子育て世代と市長との懇談会開催結果について、資料1を用いて説明)</p>
会長	<p>「子育て世代と市長との懇談会開催結果」について事務局から説明があった。御質問等あればお願いしたい。</p> <p>吉野街道に設置された看板のことが書いてあるが、市外から青梅市に来る方に対しての看板に対する率直で素朴な意見とを感じる。何よりこういうことを直接市長に言える場が大事だと思う。</p>
委員	<p>看板は市が設置したものか。</p>
事務局	<p>看板は市が設置したもので、吉野街道と青梅街道に1か所ずつ設置している。担当課にて文言をどうするか検討している。</p>
委員	<p>子育てしながらでも意見を言える場がほしいとあるが、こういう意見を言える場があるのかどうか。</p>
事務局	<p>子育て世代と市長との懇談会は昨年から始めており、今年度は2回開催した。また、市政全般に対する意見の受皿として、電子メール版市民の声、市長への手紙、市役所の担当課のカウンターでも御意見を伺っている。子育てでお悩みがある方は、子ども家庭支援センターなどで随時相談を受け付けている。</p> <p>このように幅広に相談をお受けしているが、伝わっていないと感じている。懇談会の場では、このような御意見等の受付場所を紹介した。</p>

会長	保育料無償化の記述だが、学年ではなく年齢を対象とするのが理不尽との意見があるが、これはどういう制度の内容なのか。
事務局	保育の無償化については、国が対象を年齢で区切っており、同じ幼稚園、保育園を使うにしても、3歳になってから無料となっているが、2歳は無料ではない。そのため、同じ学年の中に無償化になっている方と、費用をいただいている方がいるということ。産休・育休制度が3年間取得できることから、このような制度になっている。
会長	市長に対してとは限らないが、このような意見を言える場合は、大切なので、本懇談会としては、今後も続けていただきたいということではないか。 (委員の同意あり)
事務局	3 パブリックコメントの実施結果について (パブリックコメントの実施結果について、資料2を用いて説明)
会長	パブリックコメントの実施結果について説明があった。 御意見等があればお願いしたい。 ボランティア活動の意思を尊重して、それが市のため地域のためになればと思う。
委員	今回は森林整備のボランティア団体とのことだが、他のボランティア団体については市で把握しているか。
事務局	青梅市では社会福祉協議会にボランティアセンターというものがあり、登録している団体と連携を行うなどしている。また市民提案協働事業というものに、団体から手を挙げていただき、まちづくりに参加してもらっている。 全ての団体を把握しているわけではないが、それぞれの所管において、様々な団体を把握している状況である。
会長	ボランティア活動に市が絡んでいくことや、企業経営においても連携が大事と言われている。
事務局	4の第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略について (第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、資料2を用いて説明)

会長	委員の皆様の協力もあり、わかりやすくなったと思う。
委員	親しみやすくなった。
委員	56ページのとおりツイッター、フェイスブックが始められたことは素晴らしいと思う。
事務局	SNSは本懇談会から、御提案、御助言をいただき、ツイッターとフェイスブックを立ち上げた。こちらからの情報発信と意見の投稿をいただきたいと思っている。またフォロワーは60人弱とまだ定着はしていないが、御意見を伺う場として、今後利用者を増やしていきたい。
委員	周知について先ほども話があったので、皆さんに知ってもらえるような対策をとっていただきたい。 「羽村市を参考に・・・」という意見についてはいかがか。
事務局	民間企業が行っているようなランキングに羽村市が上位に位置付けられることがあるので、これを見て青梅市も子育て環境を整えてほしいと市民から御意見をいただくことがある。 担当部課においても、参考にすべきところは参考にしている。
委員	掲載する意見の内容として事務局としてはどうか。
事務局	改めて精査していく。
委員	SNSを見て、投稿するにしても何を投稿したらいいのか、このSNSは何のためにあるのかわかりづらいと思うので、その辺を工夫していただきたい。
事務局	御指摘を受けて、内容の改善を図っていきたい。
会長	使い勝手がいいものにしてもらえればと思う。若い人からの意見を聞ける場として、我々委員からもSNSの活用を提案し、市に取り上げていただいた。 以前も話したが、市民は言いたいことを発言し、市側として答える場面もあるし、意見をもらうだけに留まる場合もあると思うので、よく内容は精査するようになると思う。 市の運営に参考になるようなことばかりがSNSに投稿されるわけではないと思うので、よく検証もしていただきたい。

委員	<p>個々の内容というより、できあがったものの印象としては、市民の皆さんの声を聴く姿勢が感じられると思う。</p> <p>「あそぼうよ！ 青梅」に代表されるように役所的でないというか、上から目線ではない、市民に寄り添っている印象があってよいと感じる。</p> <p>後は多くの方に読んでもらい、理解していただくような努力をどうしたらよいかと個人的には感じている。</p>
会長	これは冊子の他に、ホームページにも掲載するか。
事務局	現行と同様に冊子を作成する。ホームページにも全文を掲載をする。
会長	来年度は概要版をつくり、より分かりやすい内容として広く市民に周知していきたい。
委員	第2期総合戦略をつくる中で、第1期の内容を振り返らないわけにはいかない。人口ビジョンから入って、検証を行い、では次にどのようなことをやるかというようなつくりについてはよいかと思う。
委員	<p>所属団体にてタウンミーティングとして市民の方と市議会議員の方などを集めて、地域ごとに市民に課題を挙げてもらったことに対し、議員にはその場で回答してもらったり、持ち帰ってもらって市議会で取り上げてもらったりしている。この中で、青梅市がさみしくなっているということや、交通の面のところが課題としてよく出てくる。52ページに「個人の商店が減っています・・・」という意見もあり、皆さん課題と感じていると思う。そういったところを市民も巻き込んで改善していく取組も必要になると思う。</p>
事務局	<p>一つは青梅駅周辺がさみしくなっていることの件と捉えている。</p> <p>35ページの「商店街活性化イベント事業の推進」ということで、地域を巻き込んでやっていこうという内容。その下の中心市街地活性化事業ということで、青梅駅周辺の活性化について取り組んでいる。</p>
事務局	<p>また2点目の交通の便については40ページのモビリティマネジメントによる公共交通の利用促進について、まずは使っていただき維持をしていこうという取組で、まさに市民に呼びかける内容となっている。</p> <p>御指摘いただいた内容に対して、これらの事業で十分ではないかもしれないが、総合戦略の中ではこれらの事業を位置付け、市の課題として認識している。</p>

<p>会長</p>	<p>交通機関については、都心部へ行くにも1時間程度で行ける立地にある。 市内の移動がどうなのかということでは財政との関係もある。コミュニティバスは利用状況、費用対効果を考えると、どうかなと思うこともある。 ただ高齢化していく中で、移動手段は考えていった方がいいと思う。 中心市街地は中々難しい部分もあると思うが。</p>
<p>委員</p>	<p>私が一番期待しているのはとんがり事業。 本日奥多摩町に行き、奥多摩町長と話をした。奥多摩町では外部から新しい若者が入ってきて、今まで地域になかったことを始めている。彼らの声を聴いて、彼らが定着して、また新しい若者が入ってくるような場所にしないと。奥多摩で育った人たちだけでは難しいから、そういう人たちの意見を聞きたいと考えているようなので、青梅市ではとんがり事業というのを考えているということを伝えた。 青梅を生まれ変わらせられるような、そういう沸々と湧いてくるような状態をつくり、維持していくためにはとんがり事業というのは面白いアイデアと思うので、これを是非進めていただきたい。新しいアイデア、新しい事業が生まれるような状況が続くとよいと思う。 市街地も今あるものをどうやって活性化しようかというのが、ある意味活性化のように感じてしまうが、スクラップアンドビルドではないが、新しい血がそこに入ってくるということをイメージしている。</p>
<p>委員</p>	<p>初めてとんがり事業を見たときに、色々な意見が出ていてびっくりした。こういうとんがり事業のようなことをやっていることについて、市民の方に理解してもらうことが重要かと思う。 ウォーキングマップの事業が新規であるが、これはホームページにも載っていてすごくいいと思う。 これは駅や電車のホームページ、バス会社のホームページにリンクしてもらって、青梅市をPRして、多くの人に知ってもらえることによって、興味を持ってきてもらえるようにしてみたらいいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>とんがり事業の話が出たので事業案としてお話させていただく。 資料の54ページに「成木の採石場跡地は観光として活用できないでしょうか」とある。私の趣味だがドローンの空撮をしている。東京の住宅密集地ではほとんど飛ばせるところがない。この辺から西の方に行くと住宅密集地ではなくなるが、私有地の上はやはり飛ばせないということで、簡単に飛ばせるところがない。</p>

<p>会長</p>	<p>熊本県阿蘇郡はドローン手形というのを発行し、1日3千円で自由に飛ばせるところがある。これを西多摩でできれば東京都内でドローンを飛ばせるところがあるということで、盛り上がるのではないかな。</p> <p>日本人だけではなく外国人にも、東京でドローンを飛ばせるところがあるという発信をすると来てくれるのでは。</p> <p>東京で飛ばせるということが重要と思う。この採石場跡地が使えるのであれば、こういう活用方法もあるかと思う。</p> <p>ドローンのスクールと連携して資格を取れたりするといい。</p> <p>私も撮影ができるので、市の名所などを撮影してPRに協力もできる。</p>
<p>委員</p>	<p>ドローンをやる人はどのくらいいるのか、免許はいるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>農薬散布や施設の点検等をする場合は、資格があるが、通常は必要ない。飛ばすためには通常は国土交通省の許可を取らないといけない。</p>
<p>会長</p>	<p>とんがり事業の中にドローンパークというアイデアがある。内容はドローンの練習場を市内に設置して、ドローンの貸出しを行ったり、入場料を徴収するという内容。とんがり事業として、実現に向けて検討していく。</p> <p>成木の採石場跡地は私有地のため、市の独断で使用することはできない。しかし市の総合長期計画において、土地の利用のゾーン区分において将来活用エリアということで自然環境に戻すことを基本としつつ、周辺環境に配慮して将来活用を図る地域としているので、どのようなことができるか考えていく。</p>
<p>事務局</p>	<p>第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、以上の意見を踏まえて最終的にまとめていただくことで懇談会として市にお願いすることによるか。</p> <p>(委員の同意あり)</p> <p>5の地方創生推進交付金について (地方創生推進交付金について、資料3を用いて説明)</p>
<p>会長</p>	<p>総合戦略には実に色々な事業がある中で、それぞれの事業を実施することによって変わってきている。このような事業をいかに市民に伝えていくかについてなど、御意見はいかがか。</p>
<p>委員</p>	<p>御岳山のツアーは私も参加してみたい。どこでどのように周知されているか。</p>

<p>経済スポーツ 部長</p>	<p>ツアーは青梅市の観光協会が中心になって実施している。 チラシやホームページ、青梅ブルーのSNSなどで周知を図っている。 星空のツアーについてはインスタグラマーの協力も得て発信、拡散もしている。 星空ツアーは1泊で参加料は13,000円、50名定員で実施している。</p>
<p>会長</p>	<p>市内の周知もそうだが、外から青梅を知ってもらい、「いいな」と思ってもらいリピーターになってもらいたいという質問の意図か。</p>
<p>委員</p>	<p>外まで広がっているのか、小さい範囲なのかわからなかった。もう少し旅行会社とタイアップするなどしたらどうか。</p>
<p>経済スポーツ 部長</p>	<p>「花の巡礼ご朱印ツアー」ということでは、ポケカルという旅行会社でツアーを組んで、東京駅発の日帰り旅行を3回実施し、すべてほぼ満席だった。 観光協会とも通じ、旅行会社とのパッケージングも考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>奥多摩に行った時の話だが、柿の木があるお家で、所有者が年をとってしまい柿がとれなくなった。そうしたら熊が出没するようになり、これは困るので、「柿を採ってもらえませんか」という案内を30人募集で出したら3千人応募があった。だから言葉のもっていきようというか、どういう印象を人に与えるか。30人は柿をとって、その場で干し柿にする。参加者には作っておいた豚汁を食べてもらおう。干し柿ができればお家に発送するというイベントになったらいい。 参加の要請の仕方で、全然違うなど感じた。</p>
<p>会長</p>	<p>青梅ブルーを使うには申し込みが必要になるか。</p>
<p>経済スポーツ 部長</p>	<p>青梅ブルーは基本的に商品登録をしているが、使うのは申込制ではなく自由に使って広めてもらいたいと思っている。 焼き鳥屋ののれんや、消防署がシャツに入れてくれている。 使用の基準は作っているが届け出の必要はない。</p>
<p>会長</p>	<p>本日の協議事項は、以上とさせていただく。 本日発言のあった点については、第2期戦略の策定および、今後の総合戦略の推進に向け、事務局にて対応をお願いする。 最後にその他について何かあればお願いしたい。</p>

